

明治元年十月晦日(二十日)より明治元年十一月二日まで

P8310799right

(鉄右衛門頼)雁書類、外に取寄せ品持来す、大工鉄右衛門へ(庭前の柚子一籠を贈らる)来□上総出張の儀を命じ且家族上総□願□□

□持越の儀をも頼む並昨今の手当二方遣す、今晚調所よりの達に付仮に休左衛門を遣処、家来ては

不相成旨空敷帰り来る、尤昨日にて宜敷く別段名代の者、可届出趣也(引合候者の姓名は預り不申候由也)

晦日酉 晴夜半小雨

材木石尾、戸障子襖(ふすま)盈(えい*)其外諸色は運送相済、送り状林屋定七方へ為持遣す大助を頼(たのみ)太郎名代として阪田町調所へ差出処、来月十五日までには是非出立可致旨、談有し旨也

今日にて木材石尾、盈建呉其外雑品、解にて積出し相濟事

十一月

P8310799left

朔日戌 晴

森川莊次郎より大坂兵庫外国人居留地規則定約取扱役の姓名問合文通有しに付、御用留に譲り暁と挨拶艱及旨、返書遣す、荷物廻船請負林屋定来る賃銀不残渡し遣す、大野屋より土蔵払代此の可納(明後三日出帆の趣並、乗船後、房州館山藤七野四百五拾石積み也)

礪川にて盈(えい)、いっぱい(の)廿枚富沢より同様数入用の趣に付夫れへ□与(と)す、小買物に山下辺散歩

二日亥 陰終日

笠原へ家族居所村名を報告し遣す、出立日限五日の積調所へ届書出す(大久保鍋之助受取)

大工鉄小菊一朱を□

品持来る、富田高野家作□趣粗図を渡し談乞、久左衛門娘はつ母家へ移り候旨、告別に来る小品一斤遣す、金蔵来る

出立日限聞合せ也、菊池を尋問し幸に面す、富田高野平山隠居来る、羊糕一小折持来、但し家内よりの届け

状持来呉、酒肴を勧む

*「盈(えい) 変体かなの「え」として読むか、いっぱいになっている意味として読むか?

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。